



# 運動コラム

## 水泳のいろは



運動指導員  
**高村 裕**

・君津メディカルスポーツセンター施設長  
・競泳選手コース(TeamZERO)コーチ  
資格:(公財)日本スポーツ協会  
公認競泳コーチ4

ナショナルレベルの  
トレーニング拠点において  
強化スタッフとして  
指導できる資格

水泳や水にまつわるさまざまな事がらを紹介するこのコラムの、記念すべき第一回として、「水泳のいろは」ともいるべき基本中の基本  
**①水の中にしっかり浸かる**  
**②しっかり見る**  
**③もどす動作はゆっくり**  
 という三つのポイントを紹介します。

### ■水の中にしっかり浸かる

人は、水の中にしっかり浸かってこそ、水の特性(浮力・水流・水圧など)を利用して泳ぐことができます。泳いでいる姿は、後頭部・背中・おしりあたりが少し水の上に見えるような感じになり、水の中にしっかり浸かる(体を水中に入れる)ことは水泳にとって、しっかり浮いて進むために大切なことのひとつなのです。

### ■しっかり見る

人にとって目から入る情報はとても大切。どこを見ているかで姿勢が変わり、何を見ているかで動きも変わります。クロールのように伏せて泳ぐ種目なら、基本的に真下を見て泳ぎ、呼吸は真横を見ながら(すぐ横のコースロープや壁・窓などの目標物を見る)おこないます。平泳ぎやバタフライなら、動作にあわせて下と前を交互にしっかり見ます。

### ■もどす動作はゆっくり

手のかきは強く速く動かすのが基本。けれども、もどす動作(リカバリー動作)は、ゆっくりやさしくという事がポイントなのです。“かき動作”と

“もどす動作”的速度差が力の差を生み、リラックスした効率のよい動作をもたらします。水をかいたら、ちょっとゆっくりという感じで泳いでみてください。

いやいや、オリンピック選手は体が水の上に浮いて滑るように泳いでいるじゃないか!! ガンガン腕を回しているじゃないか!!と思われるかもしれません、そのあたりのナゼ?は、いずれ具体的にお話する機会に回させていただきます。

体力つくり指導協会の各事業所で開設している水泳教室でも、ベビー・キッズクラスではカラダいっぱいに浮力と水圧を受けながら、カラダをコントロールすることを、幼児小学クラスではボビング動作\*をはじめとして水にもぐってカラダと呼吸のコントロールを覚えることを、水の世界への入り口に据え、大切にしています。ご家族のご観覧の際はそんなお子さまの姿をご覧ください。

\*ボビング動作…水の中に潜って顔を出して潜って顔を出して繰り返しながら、呼吸や移動をする動作

# 栄養コラム

## バランスよく食べよう!

管理栄養士  
**吉井 香瑠**

4月は新しい出会いや体験など変化が多く、環境が変わることで疲れやストレスがたまりやすくなります。まずは、生活リズムを作ることに取り組んでみましょう。

農林水産省が主体となって取り組みを始めている『食育ピクトグラム』を通じて、食に関する知識を身に付けていきましょう。今回ご紹介するのは「バランスよく食べよう」です。



### ■バランスよい食事とは

主食・主菜・副菜を組み合わせ、減塩や野菜・果物摂取にも努めた食事のこと。

#### 主食: エネルギー源となるもの

米、パン、うどん、そば、スパゲッティーなど



#### 主菜: 体を作るもととなるもの

魚、肉、大豆製品、卵など



#### 副菜: 体の調子を整えるもの

野菜、きのこ、海藻類などを使った料理



他にも、牛乳やチーズなどの乳製品・果物を取り入れると更にバランス良くなります



体はその人が食べたもので出来ています。成長していく時、その素材やエネルギーは全て食べ物から取り込みます。

出来る限りバランスよく栄養のある食事を心がけましょう!

### ■成長期に適切な食事とは

成長期である子どもの健康な体をつくるためには、食事のバランスだけではなく、成長期に必要なエネルギー量を摂取することも大切です。身長の伸びに伴い、体重も増加するのが成長期です。身長は伸びているのに体重が増えていない場合はエネルギー不足の可能性があります。一度に沢山の量が食べられない場合は、食事の回数を数回に分けたり、補食を摂るようにしましょう。また、どんな料理を食べればよいのか、どの位の量を食べるのか……迷った時には学校給食を参考にしてみましょう!

※学校給食は学校給食法に基づき、「適切な栄養の摂取による健康の保持増進を図ること。日常生活における食事について正しい理解を深め、健全な食生活を営むことができる判断力を培い、及び望ましい食習慣を養うこと。」と定められています。